

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 報告数4件（前月比 -、前年同月比 0.2）で、山鹿1件、御船2件、有明1件の報告でした。10月はまだ例年並みの低水準です。

小児科定点

（全体傾向）

報告数2,172件（前月比 0.6、前年同月比 1.0）と前月から大幅に減少しています。感染性胃腸炎（前月比0.7）、手足口病（前月比0.2）、ヘルパンギーナ（前月比0.3）、流行性耳下腺炎（前月比0.7）の減少によるものです。一方、A群溶レン菌咽頭炎（前月比1.4）、と水痘（前月比1.4）の増加を認めました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 報告件数121件（前月比 0.9、前年同月比 0.7）で、9月は例年よりも立ち上がり早く流行が危ぶまれましたが、10月は若干減少し例年並みの報告数に落ち着きました。菊池地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱： 報告数35件（前月比 0.7、前年同月比 0.7）で、6月の小ピーク後は連続的に減少傾向が続いています。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数193件（前月比 1.4、前年同月比 1.5）で、8月以降は9、10月と緩やかな増加傾向がみられます。例年、冬期に向かい増加傾向を認めるため、今後の動向に注意が必要です。天草地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎： 報告数704件（前月比 0.7、前年同月比 1.0）で、前月に比べ減少していますが、全体的には7月からほぼ横ばい状態で推移しており年間を通じて報告が少ない時期に当たります。これから冬期に向かい増加がみられますので注意が必要です。菊池、人吉、有明、宇城地区からの報告が多いようです。
5. 水痘： 報告数157件（前月比 1.4、前年同月比 1.0）で、6月をピークに7、8、9月と減少していましたが、10月に入り増加に転じました。例年、冬期に向かい増加傾向がみられますので注意が必要です。菊池地区からの報告が若干多いようです。
6. 手足口病： 報告数188件（前月比 0.2、前年同月比 2.7）で、7月のピーク以降、8月の急峻な減少とそれに続く9、10月の減少を認め、ほぼ例年の水準に落ち着きました。天草、水俣地区からの報告が若干多いようです。
7. 伝染性紅斑： 報告数19件（前月比 0.6、前年同月比 0.1）と、昨年と比較すると10分の1の低水準で推移しており、ほぼ一昨年の水準に落ち着いてきました。
8. 突発性発しん： 報告数159件（前月比 0.7、前年同月比 1.0）で、例年夏季に若干多い傾向がみられますが、年間を通して増減の幅が少なく、今年も例年並みの推移と考えられます。

9. 百日咳： 報告数2件（前月比 一、前年同月比 1. 0）で、菊池、有明地区から各1件でした。今年は毎月0～3件と、この3年間のなかでは最も低い水準で推移しています。年齢は二人とも0～5ヶ月でした。
10. ヘルパンギーナ： 報告数84件（前月比 0. 3、前年同月比 3. 1）で、7月のピーク以降は連続的に減少し、ほぼ例年並みに落ち着いてきました。天草地区からの報告が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数263件（前月比 0. 7、前年同月比 0. 9）で、前月よりも減少していますが、一昨年と比較すると年間を通じてまだ高い水準で推移しています。水俣、有明地区からの報告が若干多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎： 報告数36件（前月比 0. 4、前年同月比 1. 5）と前月より減少しており、ここ2ヶ月増加傾向にありました菊池でも減少しています。しかし、15～39歳の日常活動が活発な年齢層に56%と多発していますので注意が必要と考えます。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 47件（前月比 0. 7、前年同月比 1. 0）で、前月比は減少し、前年比は同数でした。男女別は、男性12件、女性35件でした。年齢別は、男性は15～54歳に幅広く見られ、女性は15～39歳に多く見られます。地域別は、熊本が38件と多く、次いで御船5件、有明、宇城各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 22件（前月比 1. 3、前年同月比 1. 0）でした。前月比は増加し、前年比は同数でした。男女別は、女性が18件、男性4件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は25～49才に見られ、女性は20～70歳以上に幅広く見られます。地域別は、熊本が14件、八代6件、御船、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数 3件（前月比 0. 5、前年同月比 0. 5）で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性1件、女性2件でした。年齢別は、男性は15～19歳に1件、女性は25～29歳と40～44歳に各1件でした。地域別は、熊本3件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数 18件（前月比 1. 3、前年同月比 1. 4）で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性が10件、女性8件でした。年齢別は、男性は20～44歳に、女性は15～54歳に見られます。地域別は、熊本が9件、宇城4件、御船3件、菊池、有明各1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数 92件（前月比 1. 2、前年同月比 1. 5）でした。年齢は、63件（68%）は70歳以上でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告は1件（前月比 1.0、前年同月比 1.0）でした。場所は熊本1件でした。年齢は1～4歳が1件でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告はありませんでした。

4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症：

報告は1件（前月比 ー、前年同月比 ー）でした。場所は熊本1件でした。年齢は70歳以上が1件でした。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告はありませんでした。

2. 無菌性髄膜炎： 報告は3件（前月比 0.6、前年同月比 1.5）でした。場所は熊本3件でした。年齢は、5～9歳2件、15～19歳1件でした。

3. マイコプラズマ肺炎：報告は20件（前月比 1.2、前年同月比 2.9）でした。場所は熊本15件、有明2件、阿蘇、人吉、天草各1件でした。年齢は、1～4歳5件、5～9歳10件、10～14歳3件、15～19歳1件、45～49歳1件でした。

4. クラミジア肺炎： 報告はありませんでした。

届け出対象感染症

1類感染症： 報告はありませんでした。

2類感染症： 結核：16件

3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症：4件
（O26:3件、O157:1件）

4類感染症： レジオネラ症：2件

5類感染症（全数把握）： バンコマイシン耐性腸球菌感染症：2件